

ビワ生育情報

第 1 報
千葉県農林水産部
令和5年10月号

本年の花房発現期は「楠」、「大房」、「田中」の3品種とも平年より早いです。
10月からは摘房・摘蕾を行います。適期に作業し、品質の揃った果実を生産しましょう。

花房及び樹の発育

花房の発現期は表1のとおりである。「楠」は9月11日で、平年より4日、前年より3日早かった。「大房」は9月12日で、平年より7日早く、前年より3日早かった。「田中」は9月11日で、平年より4日、前年より3日早かった。「楠」、「大房」、「田中」の3品種とも花房発現期は平年より早い。花房数は平年より多い傾向のため、摘房による花房数の調整が重要である。

夏枝及び秋枝の発生は多く、樹の生育は順調である。

表1 花房発現期（暖地園芸研究所）

品種	本年 (月.日)	平年 (月.日)	前年 (月.日)
楠	9.11	9.15	9.14
大房	9.12	9.19	9.15
田中	9.11	9.15	9.14

平年：1993年～2022年の30年間の平均

令和5年7～9月の気象

令和5年7～9月の気象を表2に示した。7月の月平均気温は26.8℃で、平年より1.6℃、前年より0.3℃高かった。降水量の月合計は49mmで、平年の28%、前年の25%であった。日照時間の月合計は274時間で、平年の153%、前年の145%であった。

8月の月平均気温は28.5℃で、平年より1.8℃、前年より1.2℃高かった。降水量の月合計は113mmで、平年の107%、前年の120%であった。日照時間の月合計は279時間で平年の128%、前年の135%であった。

9月の月平均気温は26.6℃で、平年より2.9℃、前年より1.7℃高かった。降水量の月合計298mmで、平年の134%、前年の214%であった。日照時間の月合計は192時間で平年の125%、前年の122%であった。

表2 令和5年7～9月の気象(アメダス館山市)

月	半旬	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7	1	24.9	23.8	26.3	27	37	22	21	23	28
	2	26.4	24.4	25.5	22	39	1	39	26	20
	3	27.2	25.0	24.9	0	34	72	33	28	12
	4	27.5	25.4	26.3	0	26	92	53	30	21
	5	26.1	25.9	27.4	0	21	8	57	32	42
	6	28.6	26.4	28.6	0	19	5	71	42	65
平均/計		26.8	25.2	26.5	49	176	198	274	179	189

月	半旬	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
8	1	29.0	26.8	27.5	0	12	5	53	37	37
	2	28.1	27.0	28.0	60	14	0	41	37	49
	3	28.5	26.9	27.9	33	18	62	32	36	38
	4	28.6	26.7	26.9	5	19	13	49	35	36
	5	28.7	26.5	27.2	14	19	0	47	34	20
	6	28.0	26.1	26.0	3	24	15	57	38	26
平均/計		28.5	26.7	27.3	113	106	94	279	218	206
9	1	27.8	25.7	26.1	27	28	14	39	30	31
	2	26.0	25.2	26.8	263	36	0	15	29	29
	3	27.0	24.3	25.5	0	39	0	44	27	33
	4	28.3	23.3	26.0	0	39	39	47	25	18
	5	24.8	22.3	22.7	4	40	66	15	22	9
	6	25.9	21.4	22.3	5	40	20	33	21	39
平均/計		26.6	23.7	24.9	298	222	139	192	153	158

※ 各気象データについては暖地園芸研究所内の観測機材が不調のため、アメダスデータ（館山市）を引用。

11月の管理

11月中旬には主要品種の開花が始まる。10月から引き続き行っている摘房・摘蕾は開花前に終わらせた。アブラムシの防除は摘房・摘蕾の終了後に行う。

摘房・摘蕾

10月から11月にかけて摘房・摘蕾を行う。摘房では最終的な着果率（全ての枝に対して果房が着生する枝の割合）が約60%になるように調整する。発育不良の花房や混み合った花房等を間引いて1樹内の花房数を調整する。

摘房を行うと、残した花房が充実するので、開花、結実及び幼果の初期生育が良好に進み、品質の揃った果実を生産することができる。また、余分な花房が少なくなるので、摘果作業が軽減される。

摘房と同時に摘蕾を行う。摘蕾では花房基部から3段目までの小花梗枝（花房の枝）の中から充実した2段を残して他をかき取り、花房内の花数を調整する。摘蕾は、残された蕾の充実を促すので、摘房と同様の効果がある。花房の長さが3～5cmに生長して、下部の2～3段の側花こうが分離した頃が作業しやすく、花房全体の開花期を延長することができる。開花期が延長することによって寒害を回避しやすくなるので、この時期を逃さずに摘蕾を行う。

アブラムシの防除

ビワに寄生するナシミドリオオアブラムシはビワの葉裏の主脈に沿って加害する。寄生された葉は紅（黄）葉し、次々と加害しながら繁殖していくので、短期間のうちに甚だしい落葉を見ることがある。また、排泄物はすす病を誘発するため、樹勢が著しく低下する場合もある。防除は発生状況を見て随時行う必要があるが、発生初期が効果的である。11月にはナシなどからアブラムシが移り、繁殖期に入るので、この時期の防除は重要である。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>